

佳作

しろいかぶとむし

埼玉県 秩父市立花の木小学校一年 真下 萌奈

ろくがつのはじめに、おじいちゃんのをから、かぶとむしのようちゅうがうちにやってきました。

しろくてぶよぶよして、ちょっときもちわるい。おとうとはよろこんでいたけど、わたしはあまりうれしくありませんでした。

ろくがつのおわりごろ、しろかったようちゅうが、ちゃいろになってきました。

「これからさなぎになるんだよ。」おとうさんがいいました。

しちがつのはじめごろ、ようちゅうのけしすをのぞいてみると、まるでへやのようになっていました。おとうさんが、このへやでさなぎにへんしんするんだよとおしえてくれました。じぶんでへやをつくるなんて、すごいなあ。わたしはようちゅうのことがすこしすきになってきました。

それから、まいにちいくけしすをのぞいて、ようちゅうがさなぎになっていかみることが、たのしくなりました。しちがつのなかごろに、へやからでて、からだをつちのなかからはんぶんだしたさなぎを二ひきみつけました。

「つちのへやからでてだいじょうぶなのかな？」

おとうさんにそうだんして、さなぎのからだがかくれるように、くろいうえきぼつとをかぶせました。なつやすみになり、ちよっぴりよふかしをしていたひ、おとうさんが

「きてごらん。」

とおおきなこえでわたしとおとうとをよ

びました。いそいでいくと、さなぎがふくをぬいでいるとこでした。

「だっぴというんだよ。」

おとうさんがおしえてくれました。わたしがじっとみているのもぜんぜんきにしないで、さなぎはふくをゆっくりぬいでいます。

「あっ！しろいかぶとむしだ。」

おとうとがいました。

「ほんとだ。」

びっくりしてわたしもいいました。おとうさんが、「これからだんだんくろくなっていくんだよ。」

とおしえてくれました。

はじめはすきではなかったようちゅう。かぶとむしになるようすをみていたら、なんだかすきになっちゃいました。

おじいちゃんのをいからやってきたようちゅうは、おすが八ひき、めすが二ひき。

たまごもうまれて、そのたまごがまただっぴしてようちゅうになって、ちびようちゅうが、八ひき。

らいねんのなつが、またたのしみになりました。